



かぜをひくと味がへんなのはどうしてなの

さまざまなかぜのしょう状

寒いところに長くいたり、人にうつされたりして、かぜをひくことがあります。かぜは80～90パーセントが、ウイルスが原因だといわれています。

冬に流行するインフルエンザウイルスは、有名ですね。

かぜをひくと、頭が痛い、熱がある、せきや鼻水やたんなどが出たり、はき気や全身がだるいなど、さまざまなしょう状があります。

こうしたとき、何を食べてもおいしくなく、味が変わると思うことが多いのです。

おもに舌で感じる味

食物を食べるときに、ふだんはいろいろな味を感じながら食べています。

あまい、しょっぱい、すっぱい、にがいなどの味は、おもに、舌にある「味らい」が感じます。

また、そうした味ばかりでなく、食物のにおいや舌ざわりや温度なども、味の感覚にとっては大切な役割をはたしています。

かぜをひくと、鼻がつまったりしますが、そうになると、においを感じる力も弱くなり、ふだん食べているような味を、感じる事ができなくなってしまうのです。

(監修 保志 宏)

舌の味を感じる場所

